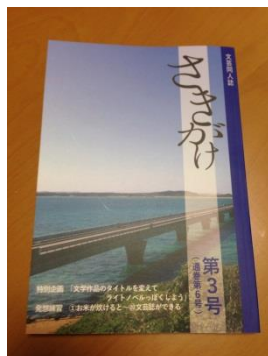


■ 通巻第6号



冊子名 さきがけ第3号

発行日 2014（平成26）年6月1日

筆者名 霧谷のあ、篠崎蓮、はしのゆき、野生のペット、ゆうや

頁数/発行部数/サイズ 76頁/50部/B6版

主な内容 三行詩・文芸詩・俳句・短歌・散文・反省文

発想練習 ①お米が炊けると～⑳文芸誌ができる

特別企画 『文学作品のタイトルを変えて
ライトノベルっぽくしよう』

印刷所 株式会社栄光

装丁 オフセット本（サンバセットオンデマンドコース）

PPマット加工カラー表紙、前のみ遊び紙

販売価格 300円

備考 はしのゆき氏により表紙レイアウトを一新、表紙に文芸同人誌であることを記載。

第2回福岡ポエイチ参加の為、発行を1ヶ月早くする。初のデータ入稿。

コーナー見出しが始まる前に右余白を使って「編集のイチオシ」を新設。

レイアウトについて

- ・表紙のタイトルロゴがカッコイイ。表紙にある企画タイトルが見やすく嬉しい。
- ・作品が表紙負けしないようにしましょう。 ・「編集のイチオシ」が面白かった。
- ・「編集のイチオシ」はジャンル無指定の方が良いかも（宝探しの意味で）
- ・「編集のイチオシ」の短歌・俳句は、引用部に「」を用いるかフォント変更した方が良い
- ・ヘッダーのセンタリングについて、俳壇・歌壇・桶屋だと違和感。慣れるのか？
- ・短歌の作品配置にぎゅうぎゅう感がある。1ページ3首で良かったのでは。
→作者名を小さくする？ 作品自体のフォントは丁度良い。
- ・桶屋コメントだけ横書きである問題について→さして気にならなかったので継続。
- ・文芸詩のペンネームと本文の間に1行挟むかどうか。→状況を見て判断
- ・中表紙と表紙のタイトルロゴは合わせた方が良いのでは？→頑張ってみます。
- ・3pのノンブルをもっと奥に。 ・中表紙のトーン部分が見えにくい。
- ・桶屋コメントが横書きがやはり気になる（→現状打開策なし可能であれば縦書きにする）
- ・データ入稿により、反省文に入る文字量が600字から400～450文字に減少。
→600字にこだわるか、400～450字に減らすか。（減らす方向に決定）

作品について

●三行詩

- ・霧谷のあ「ありのまま」「情景抒情」が良かった。
- ・ゆうや「衝撃の真実1, 2」がポエイチでも人気だった。
- ・はしのゆき「糸」「燃える薔薇」が、高校文芸部の女子高生を思い出す。

●文芸詩

霧谷のあ「直感直球信心から」の「形は変わるよいつかの話」はわざと詰めたのか？→わざとです。 ・「流水、瓶に還らす」（霧谷のあ）の三行目も？→わざとです。

●俳句

野生のペット「桜の花飾り」は季語重複か？→髪飾りで良かったかも。

はしのゆき「あざみ野」は地名ではなく、アザミの野原の略。

野生のペット「たんぼぼ三兄弟」のインパクトが凄かった。その後の作品が頭に入らないぐらいだったので、最後に配置しても良かったのではないか。

●短歌

・野生のペットの短歌が全体的に自虐的だけれど、それがいい。 ・はしのゆきがいい

●桶屋

・野生のペットが面白かった。最初の一文字が全部国名。

・①が「お米」と「米」で分かれた。 ・はしのゆきの作品が長すぎる。

●特別企画

ゆうや「手袋を買いに」「蟹工船」「高瀬舟」「蜘蛛の糸」、野生のペット「浦島太郎」「竹取物語」が面白かった。（ポエイチでも人気でした） ・懐かしい気持ちになった。

●散文

ゆうや「銀紙お月とミルクウェイ」絵本のような話で心温まった。主人公が人間でないが、人間性に富んでいるのが面白かった。キャンプのシーンが良かった。重いシーンもキャラが可愛くて受け入れやすかった。

●反省文

・篠崎蓮は野球にはまっているのか、スポーツの話は珍しい。 ・結婚ネタが被った。

その他

・目次の散文、タイトルが抜けている。 ・広告の日付が2013年（→2015年が正解）。

・野生のペット「竹ロード」は薬3号からの重複掲載。

→論外です。誤植チェックがどうしても甘くなっています。二人体制の内一人は紙に出力してチェックして下さい。

・三行詩の右上、一番最初にくる作品はとても重要です。続きを読むか読まないかはそこで決まってきます。自然と受け入れられる作品を置きましょう。